

令和5年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和6年3月

学校法人資生学園 認定こども園つぼみ幼稚園

1. 園の教育目標

園児に遊びを通して集団生活を経験させ、心身共に健全で自主創造の精神にとみ、情操豊かな子どもを育てる。

- 1、じょうぶで明るく、たくましい子どもを育てる
- 2、自分から進んで取り組み、やり遂げる子どもを育てる
- 3、友だちとなかよく助け合う子どもを育てる
- 4、個性豊かで、創造性にとむ子どもを育てる

2. 本年度の経営方針

教職員一人ひとりが、園児の豊かな成長を願い、創意工夫と協働・協調のもとに教育活動を創造し、信頼される幼稚園教育に努める。

3. 評価項目の達成及び自己評価

評価項目	取り組み状況と改善の方策
子どもが、毎日安心して園に通えたり、預かりに来れるように関わっている。	子どもたちの気持ちに寄り添えるよう言葉をかけている。今後も好きな遊びや園生活を楽しめるようにかかわっていく。
遊びを通して工夫したり、協力したりするように関わっている。	友だちと一緒に遊ぶ楽しさを伝えたり、どうすれば楽しくなるかを子どもと一緒に考えたりし、より一層遊びが広がるようにかかわっていく。
生活や遊びのなかで、自分から取り組み、最後までやろうとするように関わっている。	特に身支度など教師が手を貸すことも多いため、最後まで自分で出来たことを喜び、達成感を感じられるようにかかわっていく。
子どものよさを認めて評価しようとしている。子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じている。	子どものよさを積極的に認めていくよう意識しているが、実態を的確につかみどのような手立てを講じていくかについては、試行錯誤している。きめ細やかな見取りを心掛け、子ども理解を深めていく。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行っている。	手洗いうがいや食後の歯磨きは習慣化してきている。今後も家庭と連携しながら取り組んでいく。
子どもの実態や配慮事項などを報告や連絡・相談等から、職員間の共通理解を図ろうとしている。	保育中の出来事や子どもの姿についての情報共有を意識的に取り組んでいる。今後も引き続き教師間で共通理解できるよう工夫して取り組んでいく。

年に1回以上公開保育を行い、日々研鑽に努めている。	園内研修では保育を教師で見せ合い、活動や子どもの姿について話し合うことで学びの場となっている。今後も保育の質の向上につなげていく。
各研修会や研究会に積極的に参加して、学びを幼児理解と保育活動に生かしている。	研修会では新たな学びを得られる他、情報交換の場ともなっている。今後も積極的に参加し、研修内容を教師間で共有するなど日々の保育に活かしていく。
子どもへの安全配慮がなされ、事故防止に努めている。	安全に遊べるよう教師間での連携を深め、互いの役割を明確にしながら見届けていく。また子どもたち自身も危険なことについて気が付けるよう指導していく。
保護者と共に子どもを育てるという姿勢をもち、保育内容を伝えたり、話し合ったり、預かり中の様子を伝えている	園での子どもの姿を保護者に伝えられるよう意識している。今後はより積極的にかかわり、保育中の姿を共有していく。
園だよりや学級だより、参観懇談、連絡帳、ホームページ等を通して幼稚園の情報を発信している。	おたよりやホームページのフォトギャラリーにて保育や行事の様子を伝えている。今後も内容や伝え方を検討しながら、情報発信していく。
地域の資源（円山公園、旭山公園など）や人材（緑丘小、たんぼぼの丘、中学生の職場体験など）により、教育活動を豊かにしている。	コロナ禍の制限がなくなり、職場体験や小学校交流を実施することができ、子どもたちも楽しむ姿が見られた。今年度は天候の影響で中止とする園外保育もあったため、体力作りや自然に触れるなど様々な経験ができるよう今後も計画を立て実践していく。

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育実践	今年度の園内研修を通して、つぼみ幼稚園として大切にしていきたいことを話し合い再確認することができた。今後はそれを実践していくため、保育計画を立てたり日々の保育の中で意識したりして取り組んでいく。
情報共有	今年度も意識的に情報共有しようとしてきたが、連絡事項だけでなく子どもの姿やかかわり方について全職員で共有し、子どもの育ちにつなげていく。

5. 学校関係者評価委員会の意見（総合的な評価結果と意見）

結 果	理 由
A	2度の意見交流会アンケートと学校評価アンケートを実施し、保護者との交流会をもち、課題の把握と改善の方策を検討している取組は評価できる。今後も自己点検、自己評価の意識を高め、教職員個々の力量を高め、保育の質の向上を期待したい。